

5月の市算研ニュース

今月の市算研の内容

○各学年部会

副部会長による実践提案と研究協議が行われました。

○算数指導法基礎講座

テーマを設定し、各学年の内容について板書計画づくりを通して、教材研究しました。

○幹事研修会

市算研副会長小林広昭先生（山下みどり台小校長）による講演がありました。

算数指導法基礎講座の様子

～5月「子どもが主体的に話し合う授業」～



今年度の基礎講座では毎回テーマを設定しています。次回のテーマは「話し合いをいかにまとめていくか」です。

学年ごとに講師や役員、企画委員が相談にのります。

5月は次の単元について検討しました。

- 1年「あわせていくつふえるといくつ」
- 2年「長さのたんい」
- 3年「わり算」
- 4年「わり算の筆算」
- 5年「小数のかけ算」
- 6年「分数のかけ算」

Yokohama Elementary school Mathematical Education Workshop since 1950

よりよい算数の授業を求めて

YEME

幹事研修会 「みんなが本気になる研究会の進め方」

講師：市算研副会長 小林広昭先生（山下みどり台小校長）



大事なことを外さず、参加した方が来てよかったと思えるようにするには??

丁寧な準備が必要なことは分かるけど…どうしたら??

研究会を運営する際に、いつも頭を悩ませる問題です。

小林先生のお話を聞いて、会の進め方だけでなく、研究の中身について、司会や講師がしっかりと事前に学ぶことが大切とわかりました。文科省の資料や昭和26年の指導要領試案にもあたってみましょう！

幹事登録されている多くの先生方が参加されました。幹事研修会は今後も計画されています。奮ってご参加ください。

〈今後の予定〉

7月「こどもが輝く算数の授業」

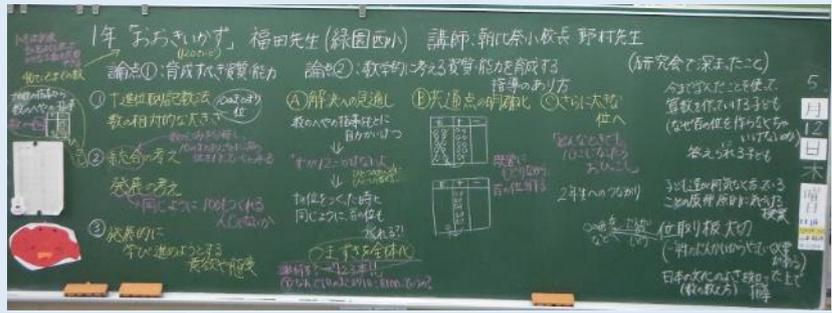
10月「おもしろい教材の開発」

11月「新しい学習指導要領の全貌」

※内容は変更になる場合があります。



1 学年部会の様子「おおきいかず」福田善行先生（緑園西小）



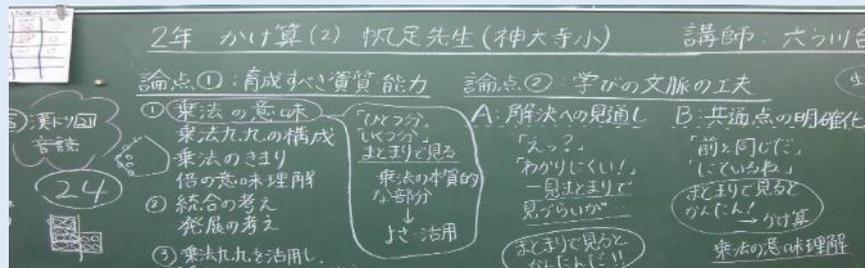
<提案の内容>

- 既習の10より大きい数の学習でも、十の位をつくる経験をさせ、100より大きい数についても、2位数の時と同じように考え、新しい位（百の位）をつくり、位取り板に表し、数に表すことができるようにした。
- 位取り板の十の位に10以上入った場合について、既習事項を想起させ、問題を解決できるようにした。

<意見・今後の課題>

- 今まで学習してきたことを使って、算数をつくっていきける、ここでは「なぜ百の位をつくらなくてはいけないのか」に答えられる子どもを育てたい。
- 子どもたちが何気なく言っていることの裏にある、原理・原則に気づける授業をしていきたい。
- 位取り板は今後の学習においても大切なので、1年生からていねいに指導したい。

2 学年部会の様子「かけ算（1）」帆足雄斗先生（神大寺）



<提案の内容>

- かけ算の意味「ひとつ分」×「いくつ分」のまとまりを見つけると乗法九九が活用でき、そして見方や考え方を今後の学習や日常生活へと活用していこうとする態度を養うことを目標とした。
- かけ算が使えなさそうな場面でもまとまりを見つけ、単元を通してかけ算を活用できるような思考の流れをつくっていった。

<意見・今後の課題>

- かけ算の意味を知り、様々な見方や考え方ができることを意識して日常生活を送ることで、ものの見方が豊かになり、数を多面的に見ることができるようになっていく。
- 教師が単元の価値を明らかにすることで資質・能力を育成していきける。「育てたい力」を全員が身に付けているか、しっかりと評価していくことが今後の課題である。

3学年部会の様子 「かけ算」杉原裕文先生（北方小）



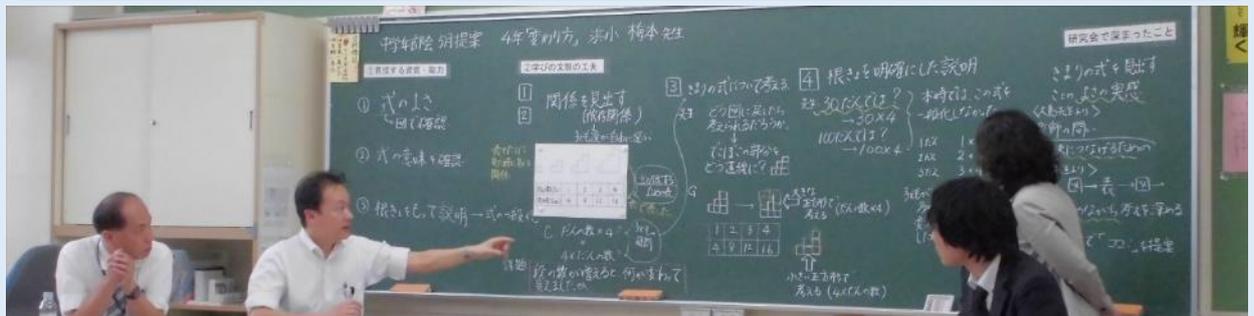
<提案の内容>

- 12×4 の場面を図や式に表し、かけ算のきまりを用いて問題解決することを通して、既習を生かすよさに気付かせていく。
- 13×5 の適用問題を扱うことで、10といくつに分ける方法のよさに着目させ、よりよい考え方を求めていこうとする態度を育成したい。

<意見・今後の課題>

- いろいろな分け方が出てきてよいのか、それとも10といくつに分けさせたいのか明確にして指導に当たる必要がある。
- 「求め方を考えよう」ではなく、もっと思考の間口を狭める必要がある。
- 「なぜそう考えたの？」と先生が引っ張って聞かなくても、子どもが自ら話したり考えたりしていけるような授業にする手立てを考えたい。

4学年部会の様子 「変わり方」梅本樹徳先生（浜小）



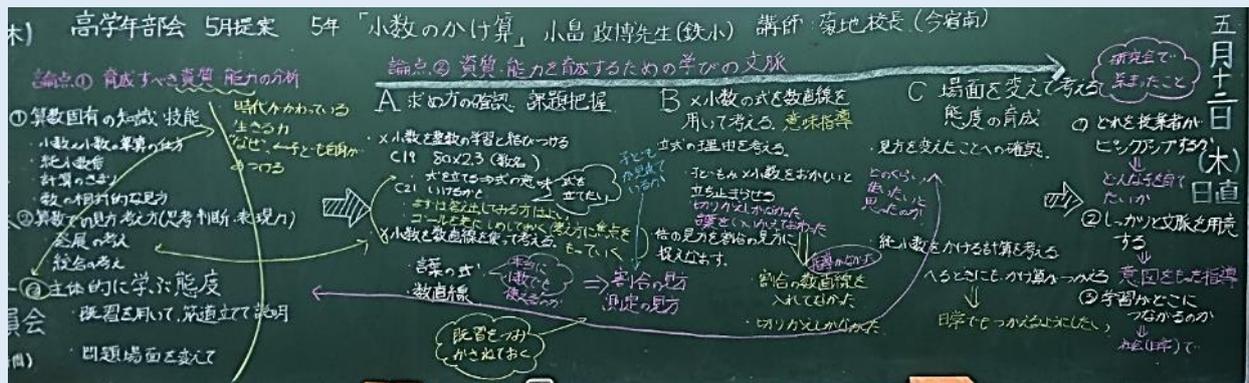
提案の内容

- 関数の考えや式のもつよさ、表にするよさ、根拠を明確にした説明などを育成した資質能力とした。
- 関数の考えを育成するために、図や表をじっくりと観察させ、依存関係を調べ見出すようにした。
- 図や表と式を結び付けて考えられるようにし、表から導き出した式を安易に一般化せず、その意味を考えられるようにした。

意見・今後の課題

- 横浜市一斉授業研究会での取り組みを実践提案として出しているが、大変よい授業だった。発問もよく考えられていた。
- 育成する資質・能力として表に出ているものが多すぎるため、主張点がぼやけている。どこに重点をおくか部会で検討しながら、大切なことを落とさないように研究を進める必要がある。

5学年部会の様子「小数のかけ算」小島政博先生（鉄小学校）



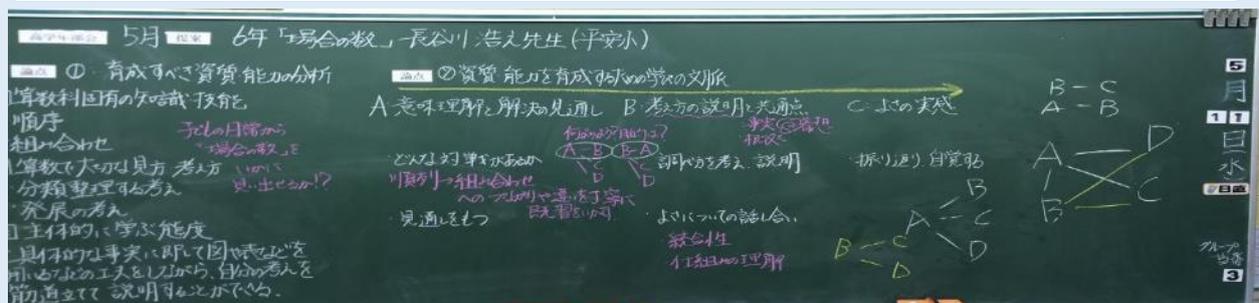
提案の内容

- 主体的に学ぶ態度の育成に向け、小数をかける意味について、数直線を用いて考えた後、純小数をかけても同じ考えを使えるかについて考える展開を仕組んだ。
- 既習を活用して筋道立てて考える力を育成できるよう、なぜ小数をかけてもいいかについて導入で丁寧に考えた。

意見・今後の課題

- 小数をかける意味について考える場面で、割合の数直線や発言の切り返しを行っていれば、子どもに課題を発見させ、授業の後半で学んだことを活用しようという態度の育成にもう少しせまれたのではないか。
- 小数をかけていいのかという疑問に子ども自身に気づかせることが課題。

6学年部会の様子「場合の数」長谷川浩之先生（平安小）



提案の内容

- 子どもの日常から、具体的な「場合の数」の場面を見出すことを大切にしました。
- 算数固有の言葉を明確にするようにした。
- 筋道立てて説明する手段として、説明をしながら画用紙を完成させるようにした。それにより、順序を意識した発言が出た。
- 出された考えを用いる意図を明確にすることで、説明する力が伸ばそうとした。

意見・今後の課題

- 生活経験から当たり前を感じることにこだわり、本当に落ちや重なりがないか？と考えていくことが小学校では大切。
- 共通点をなぜ見つけるのか？
統合的な見方が重要。「違いを認めつつ同じ」と見る見方は生き方にもつながる。
仕組みや構造を見抜くことになる。
- よさに目を向けた話し合いを深めるにはどうするかが今後の課題である。